小・中・高12年間の系統的な指導を目指した知的障害教育における教科指導の在り方の実践研究 ～安心・安全に過ごすための力の育成を通じて～

県立香取特別支援学校教諭　齊藤（さいとう）　正憲（まさのり）

1　本校の研究について

本校は、千葉県教育委員会研究指定校の指定を受け、令和４年度及び５年度に本研究に取り組んだ。学習指導要領で示されている「カリキュラム・マネジメント」の実践として、児童・生徒が安全・安心に過ごすための「つけたい力」を定め、学校としての小学部・中学部・高等部12年間の年間指導計画の系統性の在り方を探究した。また、研究の推進にあたり、機動的なマネジメントサイクルとしてCAPDサイクルを活用し、学校の教育課程の改善や、児童・生徒の個別最適化された学びの実現を目指した。また、学校全体で対象とする教科を生活科・社会科とし、特に小学部では生活科の内容を重視した生活単元学習を対象として、研究を進めた。

2　実践の概要

⑴年度当初の年間指導計画の見直し【Ｃ＝評価、Ａ＝改善のフェーズ】

令和４年度末に見直しを行った上で、令和５年度当初に生活科・社会科の年間指導計画は立てられていたが、年度が変わり新たな職員を交えての学部構成となったこと、令和４年度末からの児童・生徒のさらなる成長が見込まれること等から、前年度に立てられていた年間指導計画の見直しを実施した。

⑵授業実践【Ｐ＝計画、Ｄ＝実施のフェーズ】

見直しを行った年間指導計画を基に、各学部で精練授業を実施した。年度当初に全校で職員アンケートを実施し、今年度本校で「つけたい力」として挙がっていた「社会性」「経験」を取り入れた内容とした。評価にあたっては、評価規準の他に評価基準を設け、より詳細に見取りが行えるようにした。また、児童・生徒の個別的な評価に迫れるよう、振り返りシートを用意し、参観した職員でKJ法を実施した。

⑶年間指導計画の再検討及び学部間の12年間の系統性の確認

精練授業や各学年での１年間の取り組みを顧みて、学部内で年間指導計画の反省を実施した。その結果を基に、各学部の年間指導計画を照らし合わせ、学部間の計画の系統性を擦り合わせる作業部会を設定した。部会では重複している箇所を確認したり、他学部の計画でねらいを共通理解したりし、学校としての生活科・社会科の在り方をまとめた。

3　まとめ

⑴成果

年間指導計画に基づき、児童・生徒の実態に応じて学習活動を設定し、また事前に評価規準及び評価基準を定めたことで、教員間で評価のポイントを共通理解することができた。事前に評価の観点を明らかにしておくことの重要性だけではなく、評価の観点の定め方や観点に基づいた複数の教員による評価の仕方を体験的に理解することができた。また、学部間で系統性のある単元指導計画を作成することができ、児童・生徒の「社会性」や「経験」を生活科・社会科の12年間の授業の中で育てていくことを目指した、生活科・社会科の年間指導計画を作成することができた。

⑵課題

今後に向けて、実態差の大きい学習集団における、目標の立て方や評価の仕方、単元としての学習評価の在り方については、引き続き探究していきたいと考えている。